

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	済生会なでしこ園			公表日	2024年12月26日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	20		共有スペースや個人のスペースがパーティションを使うことで十分に作ることができおり、一人ひとりの安心が保証されている。	さらに部屋数があると支援が行いやすいと思われる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	18	2	こどもが調子を崩した際に対応できるよう、ヘルプの職員を置くことができている。	職員が食事休憩で抜け、こども同士のトラブル等が起きた時に見守りが難しい時がある。療育準備やイベントの際には人手の足りなさを感じることはある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	20		パーティションや写真カードを使用し、子ども達がそれぞれのエリアで何をするか分かりやすい環境を作っている。支援者同士でこどもの特性や発達状況を見ながら再構造化を繰り返している。頻繁に変わってしまっ慣れていない環境が続かないように工夫している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	20		毎日療育後に掃除を行っている。粘土やスライムで使用した道具は粘土等が付いたままにならないように洗浄している。月に1度「クリーンデー」を設け、清潔に努めている。	こどもたちの生活年齢に合わせた空間づくりをさらに工夫したい。日中のお子さんがいる間は清潔を保ちにくいこともある。樹木や芝生の手入れに関しては十分に行き届かないこともある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	20		こどもが不調の際に個別に使用できる部屋があり、落ち着くことができるよう調整できる環境は整っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	18	2	職員それぞれが自己管理目標を定め、半期に一度上司とともに見直し、施設運営に各職員が携わっている。事業計画は全員で振り返り、意見交換する場を設けている。課題共有とともに次年度に向けた案を出し合っている。	自己評価においてはPDCAを意識しているが、全体業務をPDCAサイクルで考えていくことは難しい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20		職員・保護者にアンケートを実施し、その結果を職員間で共有したり、そこから改善すべきことを話し合う時間を設けたりしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18	2	半期に1度業務の振り返りを行い、現状の課題を洗い出し、対応策を職員間で考え出し合っている。内部委員会を設置し、それぞれの職員が課題に関して考え、取り組み内容を定める機会がある。	業務改善についてクラスや部署ごとに課題が上がるも、それぞれの担当業務の具合で平準化等難しい状況がある。業務改善に実際にはつながっていないかもしれないが、様々な挑戦をしていると思う。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	19	1	職員間だけでなく、保護者向けのフィードバックやホームページ上でも公開している。	外部評価を確認する機会があまりない為、今後半期の振り返りの時間等に結果を共有し改善策を考えていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	20		定期的にCDSやTEACCH研修の参加を行っており。研修報告があることで参加していない職員も情報共有することができている。年度ごとに研修参加の振り分けや自由参加の案内がある。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	19	1		支援プログラムの作成、公表は職員自身あまり把握できていないため、見直したプログラムについて次年度4月からの公表を目指す。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	20		保護者からの聞き取り、こどもの普段の様子をアセスメントし複数の職員で具体的な支援策を考え作成している。「現状確認シート」を活用している。	

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	20		クラス担任で必ず会議を開催し、本人ニーズを中心とした計画になっているか確認する仕組みがある。こどもの現状をまとめたものを職員間で共有し、複数の課題について話し合いながら発達年齢、生活年齢に応じた計画の方針を検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	20		毎日支援目標を支援計画に沿った形で立てることで、日常で計画に沿った支援ができるようになっており、日々の支援が支援計画から落とし込まれている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	20		毎日療育後にケース記録としてその日のこどもの状況を記録している。担当ごとで様子を共有し次の支援策の変更を行っている。新版K式発達検査や適応行動尺度（Vineland）等を用いている。また、日々のケース会議や事例検討会を通じた多職種による見立てなど、日常的にアセスメントする機会がある。	様々な専門的視点からアセスメント結果を共有していく必要がある。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	20		発達支援計画を作成する際に、複数の支援者で見直しを行いながら現状確認シートの項目に沿いながらニーズや課題を把握し、保護者の意向も踏まえながら支援内容を決定しており、それぞれのこどもに合わせた具体的なものになっている。5領域に応じたアセスメントを意識し、支援に反映させている。	家族支援や移行支援、地域支援はそれぞれ携わる職員も変わる為、それに対する共有や相談はより積極的に行っていくべきだと感じている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	20		クラスで園外活動や地域の方との関わる機会などを作り、クラス内で活動の流れや子ども達の個別の対応等を考え実施している。行事等の担当は複数のメンバーで構成されている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	20		各担当ごとに毎週ダンス、制作、クッキング、運動、感触等の活動を計画し、クラスごとで実施している。必要に応じて、繰り返し活動プログラムのサイクルを回すことがあり、固定化しない工夫と、あえて固定させる工夫をしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	20		主活動では制作等、子どもの状況に合わせて個別の対応が必要な際はグループと個別に分かれて実施している。	集団の作り方について苦労していて、実践が難しいときがある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	20		毎朝ミーティングを行い、1日の流れや子どもの個別の動き、職員体制に関し情報を共有している。クラス以外の支援者が入っても連携できるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	20		療育後毎日ケース会議を行っている。その日の子どもの特記事項や支援の改善方法等を職員全体で話し合っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20		毎日お便りやケア記録、生活記録をとり、支援の変更点や対応方法を詳しく記入している。過去の記録からどのような変化が起こっているか確認しつつ、次の日の対応方法を考えている。	日々の記録のデジタル化に伴い視界に入りづらくなったようにも思うので、意識して繋げていきたい。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	20		定期的にモニタリング日を設定し対象期間の振り返りと現状把握を行い、計画を見直している。		
適切な支援の提供	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	20		担当者会議ではその都度担任の職員が入れる体制を作り参加できる機会を作っている。できる限り担当職員が同席できるよう人員配置を工夫している。	体制上難しいことが続くが、職員間で協力して参画できる環境を整えるべきだと思っている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	20		定期的に歯科・内科の健診の日程を設定し、地域の医療機関と連携しながら病院受診等にも繋げている。歯科医師に歯磨きボランティアとして来園いただき、歯磨き指導やフッ素塗布などを行ってもらったり、OTに来ていただき感覚統合を組み込んだりしている。また、契約の有無にかかわらず相談の入り口として保健子ども課、保育機関等と連携し、支援につながる体制作りを努めている。	

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19	1	保育所等訪問の担当職員を配置し、定期的に訪問や会議を行い情報共有を行っている。移行先への見学や情報収集を行い、計画的に移行に向けた取組を行っている。また、日頃から同法人のこども園との交流も行っている。	どのようにインクルージョンを進めていけばよいか難しさを感じているが、現状可能な限りのことは行っていると思う。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20		移行支援のためのシートを共有したり、就学に向けて職員が学校見学に同行したりと、本児の状況を学校と共有する機会を設けている。必要に応じて直接訪問や来援依頼により、情報を共有している。	
	28	(28~30は、センターのみ回答)	20		他の児童発達支援センターとの連絡会、地域の通所支援事業所や相談支援事業所を対象とした区部会を開催している。研修会や本園の見学会などを実施している。また、困難事例の検討や後方支援を行うなど、地域のネットワークづくりと質の向上に努めている。	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	20		外部研修に参加し専門的な知識・技術を得る機会がある。他事業所への見学や他事業所からスーパーバイズを受けながら質の向上に努めている。今年度は全国児童発達支援協議会研修会に全職員で参加した。また外部講師による研修(内部研修)を開催した。新規開所予定の事業所や県外からの見学対応は自センターの振り返りの機会となっている。	参加する際には療育の体制上少人数ずつなので、園内での研修を通して共有することが必要不可欠だと思うので、書面上のみでなく内部研修を通して広める機会が欲しい。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	20		担当職員(機能強化員等)が定期的に参加している。こども部会の区部会の運営をしており、地域に一番近い部分での意見や課題の聞き取りを行っている。	
	31	(31は、事業所のみ回答)	20			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	17	3	法人内の事業所との交流(運動会、夏祭り)等を行っている。他事業所や民生委員児童委員さん方との交流活動も行っている。	同法人のこども園と必要に応じて行っているが、実施できる回数が少ない。拡大できるよう努めたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20		お帰りや面談、療育後の時間に電話するなどして状況の変化や気になることがある際は逐一情報共有を行い、共通理解に繋がるよう工夫している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	20		定期的に親子で参加する活動の時間や就学等に向けての勉強会を開催するなど、家族支援の時間を設けている。こどもの見方や行動分析の中でストレングスやリフレーミングの手法を伝えている。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	20		定期的にご家族に対し説明を行い、理解してもらった上で支援を行う流れにしている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	20		現状確認のシートを提供し、様々な面からどのようなニーズがあるのか本児とご家族の視点から把握するようにしている。子供の意見の尊重は、計画策定時に必ず確認しているが、本園では日常の中でご家族が底を確認できる仕組みを作っている。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	20		定期的に面談を行い、計画内容の確認を一緒にし、毎回同意を得ている。その際にクラス担任も同席できるように調整している。		

38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に対応し、面談や必要な助言と支援を行っているか。	20		おたより帳、朝の受け入れ、帰りの際に園やご家庭の様子をお伝え、共有しご家族の困り感や要望を把握しその都度助言を行っている。また、クラス担任だけでなく、児発管、専門的支援実施者など、様々な職員が対応している。家庭での支援の反歌や共有にアプローチするために保護者に来援の協力を得ることもある。	
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	18	2	保護者の勉強会を通し、保護者間での悩み等の共有を行う機会を設定している。きょうだい児に関する相談に対応し、来園時には意識的に声をかけるようにしている。保護者サークルとの協働勉強会や、余暇活動へのサポートを行っている。また、クラス単位で茶話会を企画するなど、つながりの場を積極的に作っている。	きょうだい児支援については、面談等を通して対応しているが、今後の工夫を検討したい。 保護者同士の交流の場を定期的に設けているが、家庭の都合との併せ方の難しさがある。
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	20		緊急性がある場合はその日やその週のうちに面談の時間を設けている。現場の体制に影響がないようヘルプの職員に対応してもらおう等臨機応変に行っている。	保護者の要望の芽を拾うことができるようにすること、客観的に見る眼を持つことが求められる。
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	20		毎月園だより、クラスだよりを発行し活動や過ごしの様子を発信している。HPを毎月更新し、外部に向けての情報発信も行っている。療育支援システム「HUG」の活用も行っている。	
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	20		個人情報の取り扱いに関するマニュアルがある。年に1度研修会を行い、職員間で共有している。個人が特定されないよう、HPや通信などの写真で個人が特定されないよう対応している。事前に写真掲載の承諾を得ている。名前の記載等にも留意している。デスクの上に書類をみえないように置いたり、パソコンを開きっぱなしにしないなど留意している。外部からの見学者には「個人情報に関する誓約書」に署名をいただいている。	外部からの訪問の際には写真や名前の掲示物に配慮しているが、全てを取り除くことは難しい。
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20		個人に合わせながら、視覚的に分かりやすいよう、コミュニケーションカードを使用するなど、情報が伝わりやすいよう工夫をしている。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	20		こども達と地域の方で一緒に行う活動を設定したり、日常の活動に来て頂き遊ぶ機会を作っている。児童発達支援に関する地域向けの勉強会や自治会と連携し活動企画などを行っている。	
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	20		マニュアルは毎年見直しを行い策定している。マニュアルそのものは家族に終始していないが、きんきゅじを想定した連絡訓練やお迎え訓練等は行っている。	家族周知や訓練は行うことが難しいため、今後検討していきたい。
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	20		机上訓練や実動訓練を通して備蓄品の確認や災害対応へのシミュレーションを行う機会が毎年ある。災害時を想定し、お迎えの際の訓練を行っている。	
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	20		非常時用の薬を預かる仕組みがある。服薬、予防接種の記録は個人台帳に入れ常時確認できるようにしている。服薬内容等に変更があった場合は申し出いただき、書類の書き換えをお願いしている。	
48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	20		アレルギー対応マニュアルに沿って対応するようになっている。食物アレルギーがある子どもには、医師の判断を保護者から共有し、提供方法を検討している。現在は対象となるこどもは在籍していない。	

非常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	20		定期的に研修や訓練を行ったり、見直し・振り返りを行い安全管理が徹底されているか確認を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	20		安全計画（年間）に基づいた活動後にはお便りを発行し、どのような内容や流れで行ったか、こどもが学んだことを家族等に周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20		ヒヤリハット事例を毎日の夕礼で共有し、分析し傾向や今後の対応についてその都度考え実践している。インシデント・アクシデント報告書の作成および共有、リスクマネジメント委員会による方策検討、話し合いの時間を設けている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20		人権セルフチェック、身体拘束や虐待に関する項目チェック、内部研修の実施など、多方面からの取組ができています。意思決定やポジティブ養育など、異なる視点から学ぶ機会を設定し、虐待につながる前の自分たちのかかわりに視点を向ける研修を行った。年2回の法人内でのアンケートは日頃の対応等を振り返りかえるきっかけとなっている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	20		対応するうえで代替方法がないか検討した上で、やむを得ない状況なのか判断し対応を行っている。起こりうる身体拘束の状況について個別支援計画内に記載し、安全確保のために行う可能性があることを保護者に伝えていく。また、モニタリング時には、実際に起こった場面を必ず記載し、保護者に説明・同意を求めるようにしている。	